

平成 28 年度 郡市医師会学校保健担当理事協議会・ 学校医部会合同会議

と き 平成 28 年 10 月 6 日 (木) 15:00 ~

ところ 山口県医師会 6 階会議室

[報告: 常任理事 藤本 俊文]

開会挨拶

河村会長 4 月から学校健康診断に四肢の状態の項目が追加されたが、従来からの側わん症の検診もあり、みなさん苦勞されていることと思う。本日は、周南 3 市で行ったアンケート調査の報告もあり、これから山口県全体で検診をどのように実施していくかという話となると思う。どうぞよろしく願います。

協議

1. 平成 28 年度中国四国医師会連合学校保健担当理事連絡協議会について (報告)

県医師会 平成 28 年 8 月 21 日 (日) に鳥取県米子市で開催された協議会について報告する。各県からの提出議題は学校での運動器検診に関するものが多く、学校医や養護教諭の負担についての議題等が挙がっていた。そのほか学校医と産業医資格に関する議題等もあった。日医への要望についても運動器検診に関するものが多く、負担の軽減、学校医の報酬のアップといった要望もあった。

※ 本会報平成 28 年 11 月号参照

2. 平成 28 年度中国地区学校保健・学校医大会について (報告)

県医師会 連絡協議会と同日に開催された。まず、研究発表として 3 題行われ、続いて本県の谷村聡先生 (学校医部会の副会長) による運動器検診アンケート調査結果についての報告があった。その後、特別講演 2 題が行われた。

※ 本会報平成 28 年 11 月号参照

3. 運動器検診に関するアンケートについて

(1) 周南 3 市の調査結果報告について

谷村副部会長 28 年度より四肢の状態の項目が追加となった。これに伴い、学校医にも学校現場にも多大な労力がかかっているため、実態調査の必要があるとして、下松並びに光市医師会の学校保健担当理事の先生方にも協力していただき、周南市・下松市・光市の 3 市で小・中学校の養護教諭、学校医を対象に運動器検診に関するアンケートを実施した。回収率は小・中学校 100%、学校医は下松市・光市 100%、周南市 62% だった。特別支援学校は従来から整形外科検診を実施しているが、他に整形外科医が運動器検診を実施した学校はなかった。

実施にあたっては、小・中学校は約 3 分の 2、学校医は 2 分の 1 が負担を感じており、学校医の方が負担を少なく感じている傾向にあった。

周南 3 市は運動器検診導入にあたり、保健調査票を重視して実施するとして、保健調査票で異常があれば精密検査にまわしてよいとの取り決めをした。また、保健調査票で未記入の項目については、症状なしとするということで学校現場と学校医が申し合わせをした。これは結核検診で記入なしの場合は異常として扱わないという文部科学省の見解に準じたものである。

また、保健調査票を重視すると学校現場はすべてチェックしなければならないので大変だが、それによって学校医は四肢の状態の検診を行う手間が少し減るのでその分、負担感が減ったかと思う。

保護者からのクレームについては予想より少なかったが、もう少し保健調査票の書き方や、健康診断の意義等を学校現場から発信しなければなら

ないと思う。

また、学校現場や保護者から、「しゃがみこみができない場合はどうしたらよいか」という問い合わせや、実際に整形外科に行ったものの異常はなかったとの報告もあった。

精密検査者があまりに多いと学校現場、医療現場にも負担がかかるが、周南 3 市の場合は 10% を切っていたので、保健調査票重視で実施したこともあると思うが、精密検査率に関してはそれほど高い値ではなかったと思う。

県医 事後措置の話があったが、中国四国医師会連合学校保健担当理事連絡協議会では本県から日医への要望として、事後措置についての要望を挙げており、道永日医常任理事からは持ち帰るとの回答をいただいた。

郡市 運動器検診について、本市の場合は前もって保健調査票で異常のあった者は、一度、養護

教諭がチェックするようにしてもらっている。特に、しゃがみこみは何回か練習すればできる者が多く、実際に検診まで持ち込まれる者は少なかったため、負担としてはそれほど多くなかったように思う。他の地域ではいかがか。

郡市 本市も異常がある者だけに再度動作をさせるのでそれほど時間はかからない。しゃがみこみに関しては、痛みがない者は精密検査としていない。これはしゃがみこみ以外の項目でも同様である。異常がある者だけチェックするため、全体としてそれほど時間延長はしていない。

田原委員 本市では保健調査票回収後に養護教諭や学級担任、保健体育科教諭がチェックをして、それでも問題があれば検診の場で学校医に相談が挙がってくるというシステムで、ほぼ共通してやっているのではないかと思う。

学校現場のチェックがどのように機能しているかという評価については、今後、年度を重ねながら充実させる方向で、今回は一つの検証材料とし

出席者

郡市担当理事

大島郡 嶋元 徹
 玖珂 川田 礼治
 熊毛郡 廣島 淳
 吉南 吉武 裕明
 厚狭郡 長谷川朋美
 美祢郡 時澤 史郎
 下関市 松永 尚治
 宇部市 金子 淳子
 山口市 山縣 俊彦
 萩市 相良 健
 徳山 大城 研二
 防府 村田 敦
 下松 井上 保
 岩国市 藤本 誠
 小野田 伊藤 忍
 光市 廣田 修
 柳井 近藤 穂積
 美祢市 山本 一誠

学校医部会

副部会長 田村 博子
 副部会長 谷村 聡
 委員 田原 卓浩
 委員 竹川 剛史
 委員 前場 進治
 委員 小篠 純一
 委員 篠田 陽健
 委員 池田 卓生
 委員 青柳 俊平

山口県教育庁学校安全・体育課

副課長 中谷 信夫
 指導主事 村藤 智子

山口県医師会

会長 河村 康明
 常任理事 藤本 俊文

て理解すればよいと個人的には考えている。

県医 今回、初年度ということで、いろいろなことを試行錯誤しながら実施していると思う。確かに規模によっては全員に実施するとなると時間が足りないので、保健調査票を活用している。そこでスクリーニングに 1 回かけておいて、その後、学校医が精密検査とするかどうか判断することになると思う。

今年度の反省点や今後の展望に向けてアンケート結果を活用していきたい。

(2) 運動器検診に関するアンケートについて

県医師会 周南 3 市のアンケート調査結果を報告していただいたが、同様のアンケートを本会でも県内の学校医、養護教諭を対象に実施し、29 年度の運動器検診の円滑な実施に向けた県教育委員会との検証に活用したいと考えている。養護教諭対象のアンケートについては、県教育委員会が独自のアンケート調査を行うということだったので、それと同時に本会からのアンケート調査を依頼した。

学校医対象のアンケートについては、運動器検診を実施した内科、整形外科の学校医を対象に実施したいと考えている。また、小・中・高・特別支援学校、定時制、通信制、分校も含めてすべての学校医を対象とする予定である。各郡市医師会から対象の学校医にアンケート用紙を送付していただき、とりまとめて本会にご提出をお願いしたい。

郡市 健康診断は春に実施しているので、今実施しても何分延長したかということを知っているかは疑問である。よって、養護教諭は時間の記録をとっているの、27 年度と比べて何分延長したかが分かりやすいと思うので、養護教諭へのアンケートに入れていただければと思う。

県医 養護教諭へのアンケートも、ほぼ同様の内容であり、時間の記入欄もある。

なお、学校へは文部科学省がアンケート調査を実施しており、また、これから集計結果が公表されると思う。

県教育委員会 文部科学省のアンケートについては今後、何らかの形で報告があると聞いているの

で、その際には報告させていただく。

郡市 平成 28 年に新たに始まった成長曲線について、各地域ではどのように対応されているか教えていただきたい。自動ソフトでひっかかった者をすべて精密検査としているか、それとも学校医がそれをチェックした上で問題がある者のみを精密検査としているか。ある程度、方針を決めていただかなければ、ひっかかった者全員を精密検査とするのも大変だと思う。

郡市 私の担当している学校は小規模校なので、すべてチェックして異常がある者だけ精密検査とした。他の学校では、200 人のうち 60 人が精密検査となったところがあったが、学校医が内科の先生で、異常があるかどうか分からないため全員を精密検査としたケースで、私が見ると 60 人のうち十数名を精密検査とすることとなった。

ソフトの場合、たとえば身長が急激に伸びて早くに止まった場合や、女子では 150 cm 台になって身長が止まった場合など、精密検査の必要がない者が多くひっかかっている。体重については、たとえば中学校で運動部に入り、肥満だった者の体重が下がったといった場合もひっかかっている。体重は内科の先生が見てもある程度判断がつくかもしれないが、身長に関しては成長曲線を見られたことがないので分かりにくいのではないかなと思う。小学校ではあまり多くないが、中学校では 3 割近くがひっかかるようになっており、全員精密検査を受診させるのは困難で、無駄な医療費を使うことになる。

郡市 思春期の早発傾向のある者は身長が止まったあと、以前よりもぐんと伸びが悪くなるが、そういった者がソフトだと全員ひっかかる。よって、ある程度、学校医あるいは専門家が見て、きちんと判断してから精密検査にまわさなければならないと思う。他の地域はどのようにされているか。

谷村委員 周南市は以前から成長曲線を学校現場で描いてもらうようにしているが、28 年度の数値だけになるとかなり異常値が出る。全体的な曲線を描かないと判定が難しいと思う。他県では管理委員会を作って判定すべきだという意見もあるそうだが、山口県で実施するとなるとマンパワーが足りないの、やはり小児科医がある程度、見

なければならないと思う。

郡市 逆にいうと中学校はひっかかる者が多いものの、最終身長に近い、もしくは過ぎた者が多いので判断しやすいが、小学校の途中経過で引っかかった者を成長曲線だけで判断するのが非常に難しい。そのあたりを上手く全員にできるかというのが、時間的な労力がかかるかということもあって大変である。この問題については全国的なレベルで考えていかなければならないと思う。

ただ、成長曲線を使うのは非常によいことで、これを実施しなければ異常が分からない場合もある。よって、どのように判断及び診断していくかが重要である。

4. 「学校医活動記録手帳」の活用状況について

県医師会 27 年度の活用状況については 828 冊配付し 287 冊提出があり、提出率は 34.7%、ちなみに 26 年度は 24.9% で 10% 近く増えている。

活動記録手帳は、内科校医に担当校 1 校につき 1 冊、耳鼻科や眼科校医には 1 人 1 冊配付している。29 年度も同様の方法で配付する予定である。引き続き、ご活用いただきたい。

また、28 年度の活動記録手帳も配付しているが、29 年度に向けて提出用紙をはじめ、改善点等あれば伺いたい。

5. その他

(1) 平成 28 年度山口県医師会学校医研修会・学校医部会総会・予防接種医研修会・学校心臓検診精密検査医療機関研修会について

県医師会 28 年度は平成 28 年 12 月 4 日（日）13 時より開催する。学校医部会研修会では九州医療センター小児科の佐藤和夫 先生、予防接種医研修会では山口赤十字病院の門屋 亮 先生、学校心臓検診精密検査医療機関研修会では鹿児島医療センターの吉永正夫 先生にご講演いただく予定である。

(2) 毎日新聞への意見書について

県医師会 平成 28 年 9 月 21 日付けで郡市医師会へも通知しているが、先般、毎日新聞に側わん症等について誤解を招く記事が掲載されたことから、本会ではこのたび、山口県臨床整形外科医会、

山口県小児科医会と連名で意見書を提出した。

本件は、保護者が保健調査票（整形外科項目）の記入が分からなければ、整骨院が無料で記入するといった内容で整骨院の電話番号等も掲載されていたことから問題としたものである。

(3) その他

田原委員 学校医の役割として、担当校の感染症の予防対策には適切な時期に適切なコメントをすることが必要である。最近では輸入の麻疹の問題があったが、これに関して小児科医会では、かなり早い段階で情報が入ってきており、県の方にも早い段階での通知をお願いした。県としては国からの通達がないと警鐘を含めた通達ができないということを知ったので、山口市は独自に国からの通達の 2 週間前に全学校に通達を出した。

また、28 年はインフルエンザの流行が早く、東京、九州の一部、そして山口市の小学校で流行が始まっており、早い段階での予防接種の勧奨及び時宜を得たタイミングでの通達の必要がある。

県と連動する必要も多々あると思うが、必要であれば山口県医師会として医学的情報が集まったときには早い時期に通達を出していただくことについてご検討いただきたい。

県医 山口県、日医からの感染症関連情報については、概ね翌日には郡市医師会へファックスや郵送等でお知らせしている。また、県内のどこの地区でどのような感染症が発生したかについては、情報が上がってくれば対応できるかと思うが、今のところ本会にそういったとりまとめをする部署はないので、今後の課題である。

県下唯一の医書出版協会特約店

医学書専門 井上書店
看護学書

〒755-8566 宇部市南小串2丁目3-1(山口大学医学部横)
TEL 0836 (34) 3424 FAX 0836 (34) 3090
[ホームページアドレス] <http://www.mm-inoue.co.jp/mb>
新刊の試覧・山銀の自動振替をご利用下さい。